

脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

～ 将来の発症リスクを予測する「LOX-index®」～

受診医療機関名

NKメディコ株式会社

★ 氏名

demo 様

★ 受診日

2014 / 12 / 24

★ カルテID

000001

★ 性別

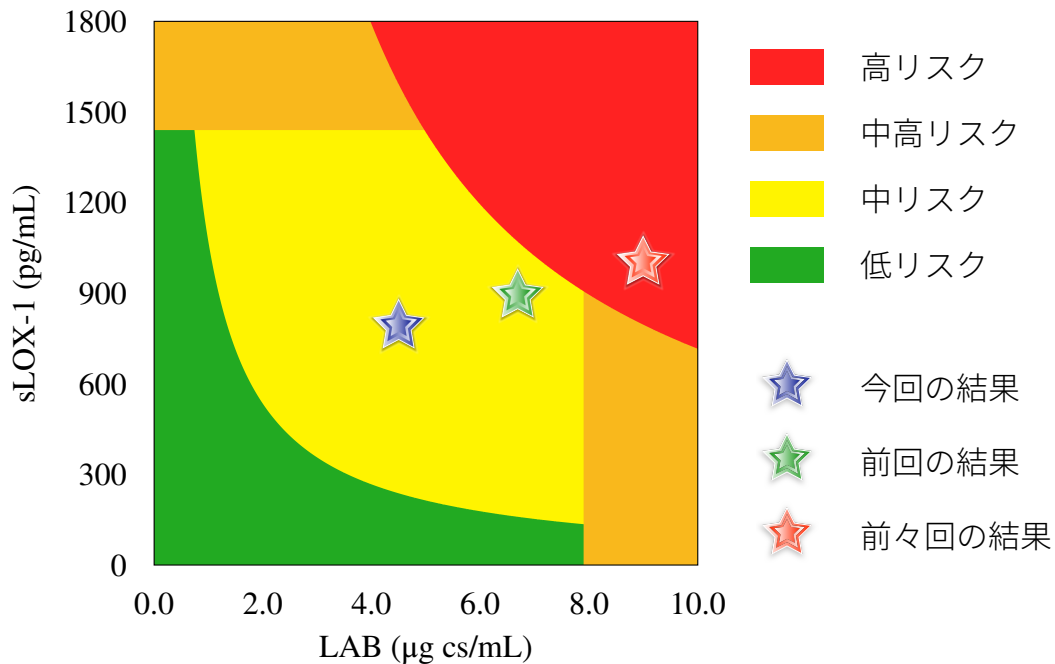
男性

★ 年齢

45

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中** です。



※ リスク評価検査の検査結果であり、医学的な診断結果ではありません。

LOX-index®
とは？

動脈硬化の初期段階は、超悪玉コレステロール **LAB** (酸化変性LDL)と超悪玉コレステロールの担い手である **LOX-1** が結合することにより起こると考えられています。そのため **LOX-index®** は、LABとLOX-1を測定・解析することで、動脈硬化の初期段階を捉えることができます。また日本国内で行われた追跡研究の結果、**LOX-index®**が高いと将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍となることがわかっています。**LOX-index®**は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価できる、唯一の検査です。

総合評価コメント

超悪玉コレステロールLAB、超悪玉コレステロールの担い手LOX-1がともに少し高めの結果で、血管障害リスク（血管が傷む危険性）が進行しやすい方向に傾いていると考えられます。

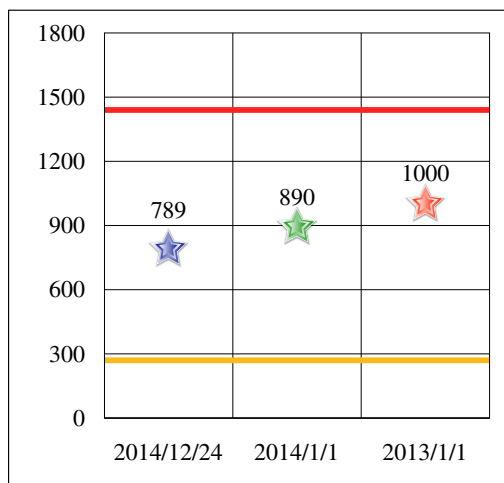
高血圧、高血糖、肥満、喫煙など他の動脈硬化リスクを持っている人は、治療や生活習慣の改善によってリスクを抑える必要があります。

LOX-1は炎症で上昇しますので、体内に炎症の兆候がある可能性があります。また、LABは体内で活性酸素が発生することで、悪玉コレステロール（LDLコレステロール）がサビつき生成されます。これらは食生活、運動習慣によって改善できますので、生活習慣を見直しましょう。

状態把握のためにも、一年後の再受診をおすすめします。

個別時系列データ

sLOX-1



評価	中	中	中
----	---	---	---

評価基準値 270 < 中 1440 < 高

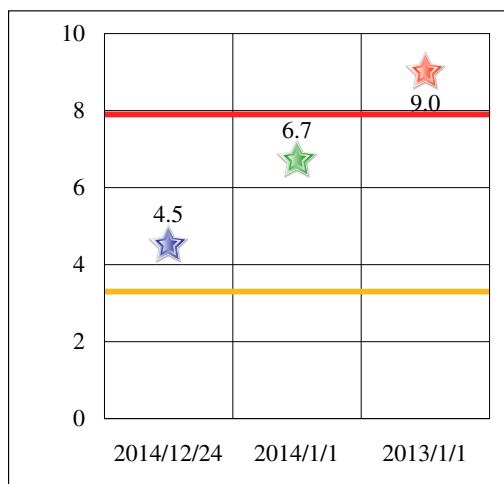
解説

超悪玉コレステロールの担い手LOX-1は、血液中から異物を取り除く働きをしています。血管に障害が起こるとLOX-1の生成が促進されるため、LOX-1は血管炎症の指標として利用されています。

今回の結果は、前回と同様にLOX-1の値が少し高い状態です。LOX-1は血中から異物を取り除く働きをしているため、酸化LDLなどに代表される動脈硬化の原因物質が多く、血管の炎症が起っていると考えられます。

この状態を改善するには、ストレスを避けることが必要です。メンタルストレスのほか、酸化ストレスにも注意して下さい。食を中心とした生活習慣の改善をお勧めします。

LAB



評価	中	中	高
----	---	---	---

評価基準値 3.3 < 中 7.9 < 高

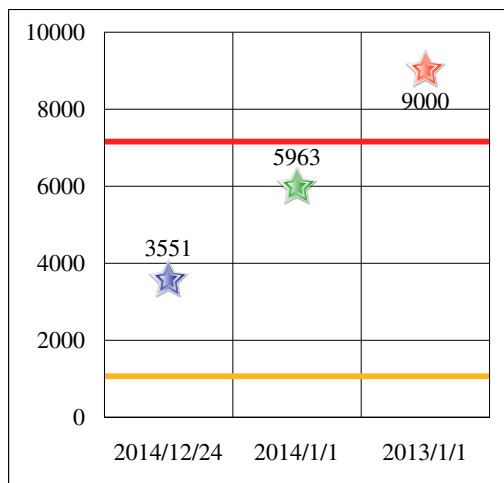
解説

超悪玉コレステロールLABは、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。

今回の結果は、前回より改善が見られますが、LABの値がまだ少し高い状態です。

更なる改善を目指すために、生活習慣を見直してみましょう。また今後、加齢などによりリスクが上がる可能性が高いため、生活習慣の改善などでLABを下げるように心がけて下さい。

LOX-index[®]



評価	中	中	高
----	---	---	---

評価基準値 1068 < 中 7160 < 高

解説

「LOX-index[®]」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。この結果は、将来の脳梗塞・心筋梗塞発症率を大きく左右します。

今回の検査結果では、前回より少し改善しリスクは中程度と評価されました。更なる改善を目指しましょう。

今後、加齢などによりリスクが上がる可能性がかなり高いため、生活習慣の改善などでLOX-1とLABを下げる必要があります。

よりよい生活習慣とストレス解消を心がけて、リスクの軽減に努めましょう。

LOX-index®を受診された後に・・・

LOX-index®の受診結果で、
あなたの**動脈硬化に伴う疾病リスク**が分かります。

高リスクの場合

すでに何らかの**動脈硬化性疾患**が発生している可能性があり、将来に**心筋梗塞／脳梗塞**を発症する危険性があります。

LOX-index®を受診した医療機関のドクターに相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。

中高リスクの場合

高脂質血症、高血圧といった**基礎疾患**や**動脈硬化性疾患**の危険性があります。

LOX-index®を受診した医療機関のドクターに相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。

中リスクの場合

差し迫って危険性はありませんが、**油断は禁物**です。**高脂質血症、高血圧**といった**基礎疾患**や**動脈硬化性疾患**になる可能性があります。

人間ドック・健康診断を同時に受診された方はその結果も踏まえてドクターに相談してください。本検査単独で受診された方は、ドクターと相談の上で、2次検査を受けるか、生活習慣の改善に努めてください。

低リスクの場合

引き続き定期的に**LOX-index®**を受診し、動脈硬化に伴う疾病リスクを確認してください。



2次検査
CAVI検査、ABI/PWV検査
動脈血管の硬さ、詰まりを検査します。手足の血圧比や脈波を検査し、動脈硬化の程度を調べます。
FMD検査(血管内皮の硬さ)
動脈硬化の前段階で起こる障害のレベルを測定し、動脈硬化を早期に見つけるための検査です。
頸動脈エコー
超音波の発信装置を首にあて、動脈硬化の有無や程度を調べる検査です。

規則正しい生活、バランスのよい食事、適度な運動を心がけ、現在の健康状態を維持するよう、お努めください。定期的な**LOX-index®**をはじめとした検診を受け、ご自身の現在の健康状態を知っておくことも重要です。



精密検査
CT検査(コンピュータ断層撮影)
X線とコンピュータを使用し、脳卒中の有無やタイプを調べます。
MRI/MRA検査(磁気共鳴画像)
電磁波を使用し、脳の断層像、血管の状態を映像化する検査です。
血管造影検査
体内にカテーテルを通し、造影剤を入れ、X線撮影します。血管の状態が詳細に分かります。

※ 当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用頂くことは出来ません。